

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 学校の実情

本校の生徒は、主体的に行動することを苦手としており、教員から指示が出されるまで待ってしまったり、自分の考えを他者に言葉で伝えたりすることに恥ずかしさやめんどろさを感じることもある。また、なぜだろうという疑問をもち、自ら解決しようと行動に移すことが少ない。一方で、調べ学習のポスターを作成するような課題が出されたときは、積極的に調べ、工夫を凝らしたポスターを制作することができる。また、生徒自身は消極的ながらも実験やグループワークなどの活動を通して学びを深めたいと考えている。

2 その観点で行おうとした理由

本校の生徒の特色から、生徒が他者と協同して活動する機会を増やし、疑問をもったりそれを解決しようと行動を起こしたりする力を身に付けて欲しいと考える。

本時では、前時までにグループごとに話し合っけて計画した実験を実施し、その結果から酵素の性質を確認したり計画した実験方法を振り返ったりすることで、生徒間での意見交換を活発に行う機会をつくる。さらに、うまくいかなかったことがなぜそうってしまったのかということをも反省し、改善するための方法を考察し表現することで、主体的に学習に取り組む態度を育むことをねらいとしている。

3 評価基準 【主体的に学習に取り組む態度】の評価

実験を振り返り、実験で生じた問題点を取り上げ、その問題点を改善する手立てを具体的に考察し、記述させることで「粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」を評価する。

観点	基準	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
実験過程や結果を振り返り、改善方法や新たな課題を考え表現している。		実験を振り返り、実験で生じた問題点を取り上げ、その問題点を改善する具体的な手だてや次の課題を考え表現している。	実験を振り返り、実験で生じた問題点を取り上げ、改善する手だてを考え表現している。	実験を振り返り、実験で生じた問題点を述べているが、改善する手だてを考え表現していない。

4 生徒の評価事例

ここでは、実験プリントの記述を分析することにより、評価を行う。

【評価Bの例】

①は、実験を振り返り、実験で生じた問題点を取り上げ、改善する手だてを考え表現しているため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

① 過酸化水素水を加えすぎて酵素が反応したら泡があふれ出てきたので、これからは気を付ける。

②は実験を振り返り、実験で生じた問題点を挙げてはいるが、改善する手だてを考え表現しているので、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。

②過酸化水素を薄めてからカタラーゼを入れる。ご飯を入れるときはご飯を湿らせる。

【評価Aの例】

①、②ともに、実験を振り返り、実験で生じた問題点を取り上げ、その問題点を改善する具体的な手だてや次の課題を考え表現しているので「十分満足できる」状況（A）と判断できる。

①過酸化水素を入れすぎて、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液の濃度が低くなり、すべての条件で反応してしまっていたので、入れすぎないようにする。酸性やアルカリ性の強い場所ではたらく酵素の性質がさらに気になった。

②多くのパターンをできたことはよかったと思うけれど、同時に比べるなど少しの工夫がもっとできたら、効率よくわかりやすかったと思う。

【評価Cの例】

①、②ともに、実験を振り返り、実験で生じた問題点を述べてはいるが、その問題点を改善する手だてを考え表現していないので「努力を要する」状況（C）と判断できる。

①過酸化水素水を入れすぎて、塩酸と水酸化ナトリウムの濃度が低くなり、すべて反応してしまった。

②肝臓をつぶすかつぶさないかで迷って、少し時間がかかってしまった。片付けがてきぱきとできなかった。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手だて】

実験で生じた問題点は理解しているので、同じ実験グループの生徒や教師と対話しながら、どのように改善するとよいかを考えさせる。